

What Do You Think?

あなたは どう思う？

令和2年 3月11日発行 人権相談部

2011年(平成23年)3月11日 14時46分発生。

最大震度 7(マグニチュード9.0)

2019年(令和元年)12月10日時点で、震災による死者・行方不明者は18,428人。建築物の全壊・半壊は合わせて404,893戸が公式に確認されている。震災発生直後のピーク時においては、避難者は約47万人。

うち、40万人は福島県。2019年7月30日時点の避難者等の数は50,271人となっており、避難が長期化していることが特徴的である。

東日本大震災で被災した 宮城県気仙沼市立 階上(はしかみ)中学校 の卒業式で、梶原雄太君が読んだ「答辞」の全文

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、私たちの為に、卒業式を挙げていただきありがとうございます。

ちょうど10日前の3月12日、春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を、57名揃って巣立つ筈でした。

前日の11日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に、思いを馳せた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名づけられる、天変地異が起こるとも知らずに・・・

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを、容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、おどろきすぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。時計の針は、14時46分を指したままです。

でも、時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく事が、これからの、私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごして下さい。

先生方、親身の御指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思って下さっていたか、今になってよく分かります。

地域の皆さん、これまで様々な御支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩んでいく姿を見守っていて下さい。必ず、よき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成23年3月22日

第64回卒業生代表 梶原 裕太

(出典 平成22年度 文部科学白書)

あれから9年...

「まだ帰れぬ人がいる」 (朝日新聞 令和2年 3月10日 朝刊)

「……忘れないでほしい。……」

毎月11日は 「人権を確かめあう日」 です

このプリントのフォントは、「UD(ユニバーサルデザイン)デジタル教科書体」を使用しています。